

質 問 者 宮 坂 千 尋

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 小中学校の熱中症対策について	全国的に猛暑が続き「いのちに関わる危険な暑さ」に対して十分な対策を講じておく必要があると考えます。教育現場において、児童・生徒の健康を守るため、熱中症への対応策について伺います。 (1) 暑い日には適切な判断をすることが重要ですが、目安として熱中症指標計が取り入れられています。校内にはどの程度配備されているか、また、子どもたちの体育や部活動といった活動を制限させないための対策について伺います。 (2) 児童・生徒は水筒を持参していますが、部活動の時間帯には空の状態になることもあります。運動する際にはスポーツドリンクによる水分ミネラル補給が重要となるため、自動販売機の設置を提案しますが、見解を伺います。 (3) 登下校時の携行品削減について、現在は非定期教材のみ置き勉対応をされていますが、今一度、熱中症対策の一つとして荷物の軽量化に努めては。 (質問の相手：教育長・担当課長)

質 問 者 宮 坂 千 尋

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
2 自治体終活支援について	一人暮らしの高齢者が増えるにつれ、死後の手続きや葬儀を行う近親者がいないといった問題が増加しています。住民が自分の希望どおりに最期を迎えるため、そして自治体の負担軽減のため積極的に終活支援を行うことが求められます。 終活支援は住民と自治体のために重要な業務と捉え本町での取組みについて伺います。 (1) 女川町高齢者福祉計画において「終活の啓発」という事業の中で、自分の想いを書き留める「エンディングノート」の作成支援とありますが、活用状況と利用促進のための取組について伺います。 (2) 終活支援事例として、エンディングプラン・サポート事業を行う自治体があります。一人暮らしの方を対象に協力葬儀社に25万円を予納し生前契約を交わし、亡くなった後、基本的な葬儀を行ってもらえる事業です。「住民の尊厳を守る・自治体の葬祭費関連の支出を減らす」このことから終活サポートが行われていますが、高齢化率の高い本町でも積極的に取り組むべき事業と考えますが、見解を伺います。 (質問の相手：町長・担当課長)